

# 週間市場レポート (2023年3月13日~3月17日)

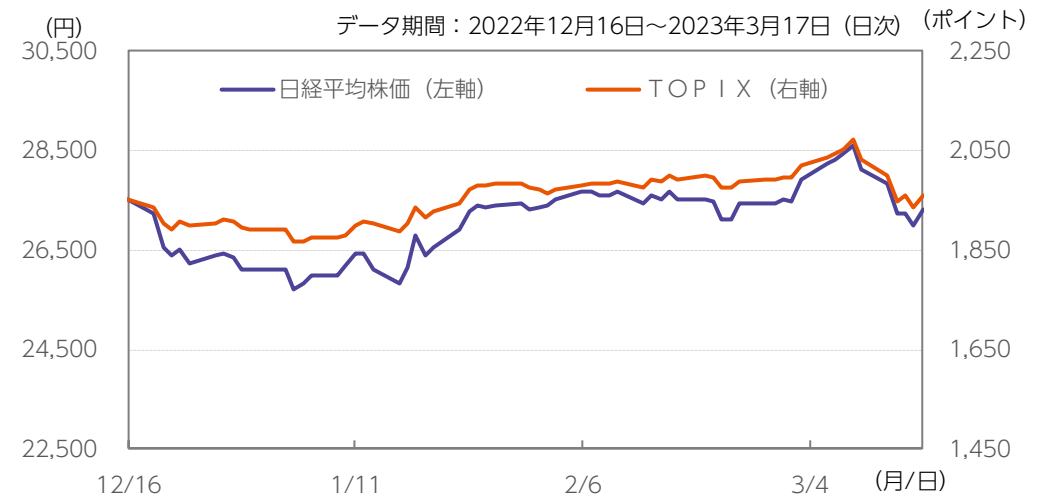
## 1) 先週の市場動向

指数名	国	前週末 2023/3/10	先週末 2023/3/17	前週末比 (%)
日経平均株価 (円)		28,143.97	27,333.79	▲ 2.88 ↓
TOPIX (東証株価指数)		2,031.58	1,959.42	▲ 3.55 ↓
ダウ工業株30種平均 (ドル)		31,909.64	31,861.98	▲ 0.15 ↓
S&P500種指数		3,861.59	3,916.64	▲ 1.43 ↑
ナスダック総合指数		11,138.89	11,630.51	▲ 4.41 ↑
ユーロ・ストックス50指数		4,229.53	4,064.99	▲ 3.89 ↓
S&P/ASX300指数		7,102.73	6,952.90	▲ 2.11 ↓
上海総合指数		3,230.08	3,250.55	▲ 0.63 ↑
MSCI AC アジア (除く日本)*		799.90	803.63	▲ 0.47 ↑
東証REIT指数		1,821.29	1,767.63	▲ 2.95 ↓
FTSE NAREIT All-Equity REIT 指数		691.89	688.38	▲ 0.51 ↓
ASX300 REIT 指数		1,403.40	1,371.90	▲ 2.24 ↓
グローバルREIT (除く日本)*		167.98	165.84	▲ 1.28 ↓
日本10年国債 (%)		0.411	0.288	▲ 0.123 ↓
米国10年国債 (%)		3.699	3.429	▲ 0.270 ↓
ドイツ10年国債 (%)		2.508	2.108	▲ 0.400 ↓
英国10年国債 (%)		3.640	3.284	▲ 0.356 ↓
ドル/円		135.03	131.85	▲ 2.36 ↓
ユーロ/円		143.70	140.67	▲ 2.11 ↓
英ポンド/円		162.42	160.56	▲ 1.15 ↓
豪ドル/円		88.82	88.31	▲ 0.58 ↓
フィラデルフィア半導体指数		2,923.93	3,083.52	▲ 5.46 ↑
WTI原油先物 (ドル)		76.68	66.74	▲ 12.96 ↓
CRB指数		264.99	254.66	▲ 3.90 ↓

## 2) 日本の株式・債券市場

### ◀ 株式 ▶

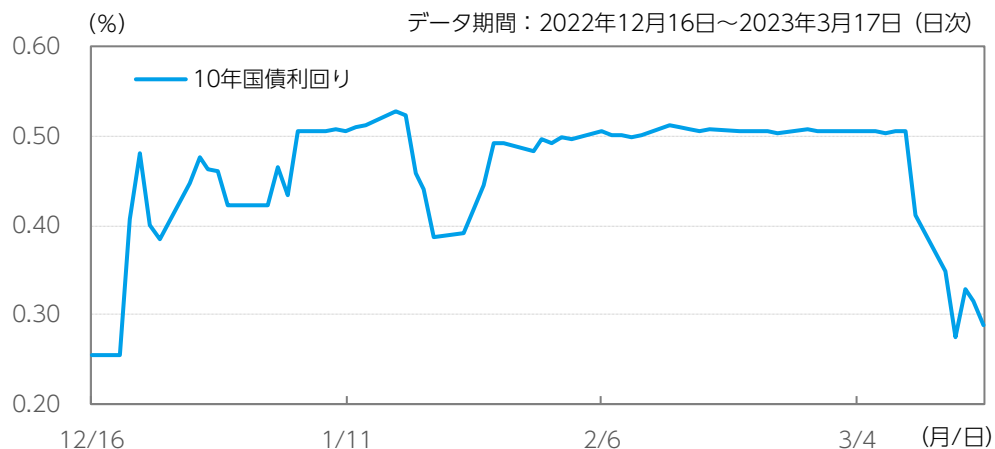
日本株式市場（日経平均株価）は、前週末比で下落しました。シリコンバレーバンク（SVB）など米国の銀行の経営破綻を受け、国内外の投資家のリスク回避姿勢が強まるなか、国内株式も売りが優勢となり、前週末から14日（火）まで3日続落しました。その後、米財務省などによる異例の救済措置を受け、米国の金融システム不安が和らぐと小幅に反発したものの、米地銀や経営不振が続くスイス金融大手のクレディ・スイス・グループへの支援をめぐり、週末まで一進一退となりました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成  
 ※現地通貨ベース \* ▲はマイナスを表します。

≪ 債券 ≫

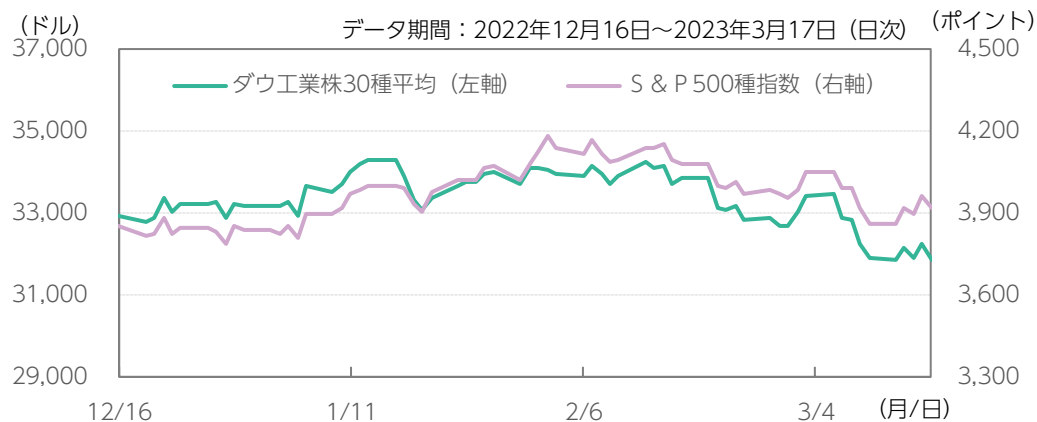
日本債券市場（10年国債金利）は、前週末比で低下しました。日銀が前週9～10日を開いた金融政策決定会合で、現行の金融緩和策を維持することを決定したことから、週初より投資家の売り持ち高を解消する動きが続くなか（利回りは低下）、米国の金融システム不安から米長期金利が大幅低下した流れを受け、低下しました。一時0.240%と2022年11月以来の低水準をつけました。



3) 米国の株式市場

≪ 株式 ≫

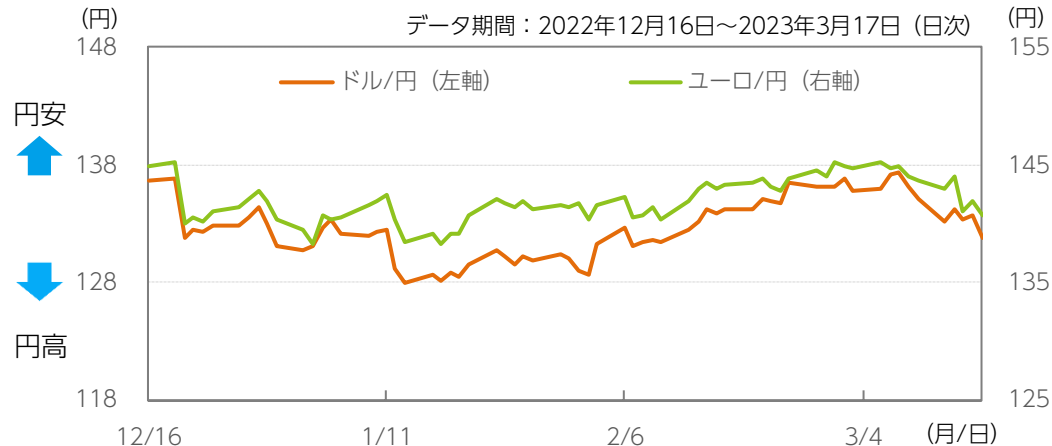
米国株式市場（NYダウ）は、前週末比で横ばいとなりました。10日に経営破綻したSVBに続き、シグネチャー・バンクも経営破綻し、連鎖破綻や今後の銀行の貸出態度の厳格化による景気鈍化への懸念などから下落しました。米財務省などによる預金保護の救済措置を受け、金融システム不安が和らぐとの見方から上昇する場面もあったものの、週末はファースト・リパブリック・バンクの支援をめぐる先行き不透明感から下落しました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成

4) 外国為替市場

米ドル/円相場は、前週末比で円高米ドル安となりました。SVBをはじめ米国での相次ぐ銀行破綻を受け、米国の利上げ観測が後退すると、米長期金利が一時3.4%台まで大幅に低下し、日米金利差縮小を意識した円買い米ドル売りが進みました。週末にかけても金融システム不安が米景気悪化を招くとの懸念からリスク回避の円買い米ドル売りが優勢となりました。



5) 今週の見通しについて

米中堅銀行の経営破綻と救済措置をめぐる、株式市場は上下に振れやすい展開となっています。

欧州中央銀行（ECB）は16日（木）の定例理事会で、3会合連続で0.5%の利上げを決定しました。前週から米国で銀行の経営破綻が相次いでいることに加え、理事会前日には欧州銀行の信用不安が広がりました。一部では、ECBは今会合では利上げペースを緩め、金融システム安定を優先するとの見方もありました。しかしECBは、高止まりするインフレを抑制することが最優先であるとの姿勢を示しました。次回5月会合では、インフレ動向を見極めながら、利上げ幅を決定していくものと思われます。

今週は、21～22日の日程で米連邦公開市場委員会（FOMC）が開催されます。米銀行の経営破綻や、業績不振など、金融システム不安が続く中、米連邦準備制度理事会（FRB）は難しい舵取りを迫られることとなりそうです。米財務省などによる異例の救済措置を受け、今後の米銀行の連鎖破綻への懸念は一旦後退したものの、銀行の経営不安は欧州にも波及しつつあります。今週の株式市場は、FOMCの結果とパウエルFRB議長の発言を見極めながら、慎重に方向感を探るものと思われます。

## 【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

## &lt;設定・運用&gt;



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506

9：00～17：00（土日祝日・年末年始を除く）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>